

「群衆」「集団」「組織」

バズワード (buzzword) という言葉があります。意味は「一見、説得力があるように見えるが、具体性がなく明確な合意や定義のないキーワードのこと」です。多くの経営書やビジネス書を読んでいる時に「書いている意味は分かるのだけれど、具体的に言うとどういうことなのさ？」という素朴な疑問を覚えることがあるのですが、それがまさにこのバズワードなのだろうと思います。特に大学教授や官庁上がりの人物が書いたものや発言したものにこの手の話が多く、現場の「皮膚感覚」からすると違和感を感じる事が少なくありません。つまり表面的すぎて、あるいはカッコを付け過ぎていて分かりにくい話のことです。

「組織」の定義

組織、という言葉もバズワードです。辞書によれば「ある目的を目指し、幾つかの物とか何人かの人とかで形作られる、秩序のある全体。そういう全体としてのまとまりを作ること。また、その組み立て方」などと書かれているのですが、さっぱり具体的なイメージが浮かばない。企業組織にとって一番重要な定義がこの程度なのですから、組織のことを考えるのは骨が折れます。骨が折れるので、多くの組織では本質的な論議が深まらず、分かりやすい「売上」や「利益」、人材育成にしても単純な「好き」「嫌い」程度のレベルで済ませてしまっているのではないのでしょうか。

そこで毎月博多で開催している「とじき塾」の10月開催時に、私流にこれを定義してみました。

「同じ場所に同じ時刻に集まって、同じ目的を持っていたとしてもそれを組織とは呼ばない。なぜならば、コンサートや観劇に集まった人々は群衆だからである。また、同じ場所に同じ時刻に集まって、同じ目的と目標を持っていたとしても、それを組織とは呼ばない。同好会やクラブ活動などで集う人々は集団に過ぎないからである。組織とは、同じ目的と目標を持って、なおかつそれを達成するために機能性を理解した人々の集まりである。そして、企業組織とは、同時に理念と価値観と献身性を兼ね備え、社会性を持たなければならない」

献身性とは、セクショナリズムの排除ということです。他部門が忙しく働いている時に知らん顔をしている他部署の人間はいないか。若手が苦勞している時、適切なアドバイスをするベテランはいないのか。年配者や女性が重いものを抱える時、素早く持ってやる若手はいるのか。社会性とは、顧客ニーズのことです。客の顔が見えているか、客の声を聞いているか。そして時代変化をきちんと理解しているか・・・。

残念なことに「群衆」のような組織が存在します。同好会やクラブ活動の延長のような甘ちゃん揃いの組織モドキの「集団」が存在します。そうした団体では「理念」や「価値観」などという発想も必要性も理解されません。ましてや「献身性」や「社会性」などイメージすら出来ません。研修後のアンケートでは「うちはまさに群衆である」「確かに社内での仲は良さそうに見えるが、それはクラブ活動的仲の良さであり、機能性を磨く意識がない」などという経営者の言葉が並びました。

「群衆」「集団」「組織」は、外見は同じです。同じ場所に同じ時間に集いながら、そこからの方向とレベルの違いによって展開がまったく異なってきます。ここに来て、グローバルでダイナミックな動きが社会に影響を与え始めました。中東の不安定な情勢が、中国の経済減速と領土的野心が、これからの世界にどのような影響をおよぼすのか。誰も傍観者ではられません。組織を鍛え、組織を磨かなければやがて組織は消滅してしまいます。2015年の残り数十日をどのように過ごすのか。何を考えるのか・・・。バズワード頼みでは、明日が見えてきません。